

### Groundwork / Willie Jones III



- ①Git' cha Shout On ②Hindsight ③Dear Blue ④ Toku Do ⑤Charity ⑥Groundwork ⑦New Boundary ⑧Jamar
- Willie Jones III (ds) Eric Reed (p) Buster Williams (b) Eddie Henderson (②④⑦⑧:tp) Stacy Dillard (②~⑤ ⑦⑧:ts) Warren Wolf (①②④⑥~⑧:vib) Steve Davis (②④:tb) 2014.8.5, NY
- WJ3 Records WJ31017

### 自己のレーベルで着実に成果を挙げているドラマーの第6弾

前作のセクステットによるマックス・ローチ集で、主流派ジャズ・ドラムの伝統継承を表明。今回は1~3管をフロントに配した上で、再びパイプを起用し、近年逝去したジャズマンへの追悼作としている。晩年の助演者を務めたシダー・ウォルトンの曲では、編成を変えた②⑥で偉大なピアニスト、作曲家を偲ぶ。ベース・ソロが印象的な④の作曲者バスターやヘンダーソンといったベテランの力も借りて、シャープなリズムが心地よく全編を貫く。(杉田) ⑤

### Enrapture / Ken Peplowski

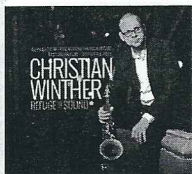


- ①The Flaming Sword ②An Affair To Remember ③ Oh, My Love ④Cheer Up, Charlie ⑤I'll Follow My Secret Heart ⑥Enrapture ⑦Twelve ⑧Vertigo Scene D' Amour/Madeleine (Love Music From "Vertigo") ⑨ When October Goes ⑩Willow Tree
- Ken Peplowski (cl,ts) Ehud Asherie (p) Martin Wind (b) Matt Wilson (ds,per) 2015.2.24, NJ
- Capri Records #74141-2

### スイング・クラ&モダン・テナーの名手による米国レーベル作

本レーベルの前作と同様、隠れスタンダードとポップスに焦点を当てて選曲。ベースとのデュオによるJ.レノン曲③や、ノエル・カワード作曲のバラード⑤のようなクラリネット吹奏曲でも、違和感のない響きを生んでいるのがペプロウスキーのセンス。よじれたテーマ・メロディが面白いH.ニコルスの⑥や、テナーとピアノが交錯し、ドラムスが自由に動くP.アースキン曲⑦が異色。イスラエル出身者らしからぬスイング派アシェリーにも注目。(杉田) ①

### Refuge In Sound / Christian Winther



- ①Refuge In Sound ②Looking Back ③One For Mulgrew ④Outsider ⑤Tell Me Your Truth ⑥Blues Life ⑦The Sleeping Giant ⑧Tune For Trane
- Christian Winther (ts) Allyn Johnson (p) Mike Moreno (①②④:g) Reuben Rogers (b) Billy Williams Jr. (ds) Christie Dashiell (③:vo) 2015.8.11, NY
- Sound Perspective Music SPM 1001

### 新レーベルから心機一転を図ったテナー奏者5年ぶりの新作

米国に移住したデンマーク人であるウィンザーは、SteepleChaseから4枚をリリースしていることとも関係しているのか、クリーンでスムーズな音色に好感を抱く。全曲オリジナルを揃えて勝負に出た本作は、ワン・ホーンで自身をクローズアップした編成。歯切れのいいリズムを刻むウィリアムスを得て、モーダルな⑦で変化をつけるなど、キャリアに裏打ちされた自信に溢れるプレイで魅了する。3曲に参加のモレノが趣旨に沿った助演で貢献。(杉田) ①

### Artifacts / Nicole Mitchell



- ①Composition 23B ②Jo Jar ③Bernice/Days Fly By With Ruby ④The Clowns ⑤Have Mercy On Us ⑥ B.K. ⑦I'll Be Right Here Waiing ⑧Munkt Munk ⑨ Light On The Path
- Nicole Mitchell (fl,electronics,vo) Tomeka Reid (cello) Mike Reed (ds) ©©2015
- 482 Music 482-1093

### 昨年50周年を迎えたAACMの元代表が会員の楽曲を集めて

長い歴史で初の女性代表を拝命したミッチェルは、音楽家としての個性と説得力も一流。A.ブラクストンの①を皮切りに、R.ミッチェルがJ.ジャーマンのために60年代に書いた②、居合い抜きのような緊張感溢れるL.ジェンキンス曲④、ヴォイスを加えたA.C.マイヤースの⑤、エアーのS.マッコール由来曲⑥⑦、ストイックな協調性を示すM.R.エイブラムスの⑧と、歴代の先達への敬意、覚悟と矜持を明らかにする。トメカ・リードの演奏も強力。(杉田) ①

### Memento / Ayumi Tanaka



- ①When We Were There ②Opened Eyes ③Tokoyo ④Flowers In The Dust ⑤Cymbals ⑥Red Thoughts ⑦Kiirhige
- Ayumi Tanaka (p) Christian Meaas Svendsen (b) Per Oddvar Johansen (ds) ©©2016
- AMP Music & Records AT006

### ノルウェーで才能が開花した邦人女性ピアニストのデビュー作

エレクトーンで出発し、ジャズ・ピアノを学ぶため2011年にオスロに留学。ミシャ・アルペリンに学び、現地でプロ入りした田中鮎美は、スウェーデンの坂田尚子に似たケースだが、音楽性は異なっていて、ノルウェーの美点を吸収したスタイルに斯界の通人なら共感できる要素多数。静かなムードで北欧テイストを表現する一方、激震のピアノ・プレイと緊密なトリオの結束ぶりで、このメンバーの必然性を実証。今後をウォッチしたい才人の登場だ。(杉田) ①

### Border Lines / Stephane Tsapis



- ①Welcome To My Country! ②Patrouino ③The Mountains Sees Us All ④Karaghiozis In Wonderland ⑤Border Blues ⑥Tourist's Point Of View ⑦Fievres ⑧To Praktorio/Kaigomai ⑨Giorgitsa ⑩Goldman Sucks ⑪Nichtose Choris Feggari
- Stephane Tsapis (p,el-p,philicorda,per) Marc Buronfosse (b) Arnaud Biscay (ds,tabras) Arthur Simonini (⑥:vin) ©©2016
- Cristal Records CR 242

### パリのコスモポリタンが別要素を加えたトリオの新展開

2014年の『チャーリー・アンド・エドナ』で本邦デビューしたピアニスト。おとぎ話への入り口のような前奏曲①で始めると、イスラエル・ジャズのメロディの②に進み、同様の旋律が⑦⑧⑨でも認められて、これが本作のキー・ポイントだとわかる。ピアノと電気鍵盤の多重録音や、2台のソロで往復する場合は、アルバム名を示唆しており、それはシークレット・トラック風に仕立てた⑩にも合致。前作とは異なるコンセプトに挑んだ意欲作だ。(杉田) ①